

平成27年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成28年2月8日（月）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 近畿中国局管内の需給動向について
- (2) 国有林材供給調整の必要性について
- (3) その他

3 議事概要

《検討結果》

秋以降、需要期に入り、住宅建設も順調でプレカット工場は高い稼働率が続き、製品の荷動きも活発であったが、その後不需要期に向かい、緩やかに落ち着いてきたところである。

供給は好天が続き、多めの出材であったが、地域によっては年明けの降雪の影響もあって出材が減り、全体に荷動き、価格ともほぼ横ばいで推移している。

合板は一部タイト感があり、相場は強保合で推移している。

チップについては、新規バイオマス発電施設の稼働等により、他地域、他分野との競合がみられる地域もある。

総じて需給はひっ迫した状況にはなく、現在、特に国有林材の供給調整の必要性は認められない。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・バイオマス向けの原木と合板用の原木は単価が違うので、生産者はA材やB材になるものをバイオマスに持って行くようなことはしないだろう。
- ・合板用原木は、東北と西日本では価格に差がある。
- ・和歌山県では原木の市場取り扱い量が減っており、需要者への直送や他県への流通が増えているが、直送等の量を把握する方法を考えなければならない。
- ・市場の原木取扱いは、量も売上額も下級材が伸びている。今は引き合いが安定しているが、3月以降下落するのではないかと不安を感じる。

○原木需要分野（川下）の動向について

- ・増税前の駆け込み需要は、今回は規模が小さいものの起きるという人が多い。今も例年と比較して仕事が出ているので、既に始まっているのではないか。しかしその動きはアベノミクスの恩恵を受けている東京に偏っており、一極集中の様相となっている。
- ・東京では3.5角柱や土台3.5角の需要があり、これには16cm径の丸太が適しているが、伐採木の太径化や14-16cmの丸太が最近バイオマスへ流れていることもあり、一部でやむなく18cmの丸太を使用している。
- ・岡山ではCLT向けのラミナを供給するための協議会が発足し、5社が加入している。
- ・合板価格は昨年6月から上昇し、900円/枚程度で落ち着いた。

○その他

- ・間伐に対する補助金が減るという情報があり、搬出効率の悪い材が搬出されにくくなることが考えられる。今後バイオマス向けの未利用材の出材が減ると、合板向けとの競合が起きるのではないか。
- ・主伐と造林の一貫作業は、伐ったらすぐ植えないとまた草が生えてしまうので、植栽時期を選ばない、コンテナ苗を使うことも考えられるが、生産量がまだ不足している。
- ・奈良県のバイオマス発電施設が稼働し、和歌山県北部からも少量ではあるが、出材している。
- ・東京オリンピックでは木造建築物に認証材を使う必要があると言われていたが、国産材には県による地域材認証が行われているものもあり、それも認証材として扱うようなことが必要ではないか。
- ・岡山県では、真庭システムを取組をSGECに取り込むことについて検討を始めた。